

平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホームあがの		
所在地	福岡県田川郡福智町上野2678番地の1		
自己評価作成日	平成25年6月26日	評価結果確定日	平成25年7月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったりと、楽しく、自由に、ありのままに」をモットーに、無理強いしない介護、笑顔で楽しく過ごせる楽しみの共有を目指しています。
 利用者スタッフの関係ではなく、ホーム全体を一つの家族と考え、みんなが落ち着ける環境づくりを目指し、スタッフ自身が楽しめ、お互いが笑顔になれる関係を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福智山連山の麓、ホーム内の緑豊かな木々、瓦作り、天然木の造りの「あがの」は、眺めるだけでもゆったりとした気持ちに浸らせてくれる。恒例の餅つきや夏祭りには、地域住民の参加があり、近くの小学校からは運動会、入学式、卒業式の招待を受けるなど、親密な交流が継続している。小学校の児童との交流で涙を流す入居者の姿から、子どもの姿で心が和む豊かな感情を職員は見出している。排泄の自立に対する職員の意識は高く、入居者の日々の笑顔につながり、廊下での歩行訓練やDVDの体操に意欲的に取り組む入居者もあり、ホームでの暮らしが入居者の意欲を引き出している。このような日々の入居者や地域住民との関わりから、職員は自分たちで作上げた理念が実践出来ていると感じている。地域密着型サービスとして、今後も地域の高齢者を支える核となることが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームあがの 南棟**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は地域密着型サービスの意義を理解し、利用者をその人らしく生活できるように支援している。	開設時に定めた理念を職員全体でわかりやすい表現に見直し、各ユニットのデイルームと玄関に掲示している。職員は日々の利用者や地域住民との関わりから、自分たちで作上げた理念が実践出来ていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は常日頃から、礼儀正しく友好的な態度で隣近所の方と接している。また、ホームの行事等に参加を呼び掛け、交流を持っている。昨年から子供会や老人会との交流も増えてきた。	定期的開催している餅つきや夏祭りには、地域住民の参加があり、特に焼きそばや焼き鳥などの屋台を子供たちは楽しみにしている。近くの小学校から運動会、入学式、卒業式の招待を受けるなど、親密な交流が継続している。先日も地域の小学校から七夕の願いを書いた笹飾りが持参され、調査日もホームの玄関に飾られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、認知症の理解を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規則を作り、2ヶ月に1回、定期的に会議を行っている。行事などのアドバイスをしてもらっている。	適切なメンバーで2ヶ月ごとに開催されている。会議ではホームの現況や年間行事計画や行事報告、外部評価の報告、職員の入・退職、事故報告等が行われ、参加者から外出先の提案があっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に役場職員の参加を呼び掛け、ホームの状況や外部評価、公表制度等を報告し、意見を求めている。	運営推進会議以外に行政職員の訪問はないが、今年度から地域包括支援センターが地元で開設されたので、今後は相談に向く予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束の廃止に取り組む努力をしている。夜間や手薄な時など、安全が確保出来ない時は、施錠をしている場合もある。	18時半から7時まで玄関は安全のため施錠するが、それ以外は鍵をかけてない。外出傾向のある入居者には、玄関のセンサー音で対応しているが、近隣の理解や協力を得た通報で事なきを得た事例もある。家族の了解を得て、起き上がりのセンサーを使用している入居者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞などで、虐待の報道があった時など、ミーティングを利用し話し合いを行っている。虐待防止マニュアルを作り、時間があるときは読むようにしている。わからない時は、学習会なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、学習会に参加出来ていない。今後、機会があれば参加を予定している。(グループホーム協議会主催など)	権利擁護制度の利用している入居者があり、成年後見制度のポスターを廊下に掲示している。年に一回、社会福祉協議会主催の研修があるが、今年度は、まだ未開催で、他主催の研修があれば参加する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ場合は、前もって十分な説明ができる時間を作るよう努力している。また、不安や疑問がある場合は、わかりやすく説明できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、利用者がなんでも話しやすい雰囲気づくりに努めている。	転倒などのインシデントはすぐに家族に連絡したり、毎月の利用料金支払いに来所する際に意見交換を行っている。あがの通信を作成し、ホームの様子を家族に報告している。玄関に苦情相談箱を設けているが、今のところ投稿はない。今後は、家族会の結成を働きかける予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者は、なんでも話せる関係作りを行い、職員の意見を反映できるように努めている。	2～3ヶ月毎に、各ユニット毎に全員参加でミーティングを開催している。職員の提案で、入浴時湯船に入ることが難しくなってきた入居者に浴槽台を購入するなど、運営に意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格の習得(介護福祉士他)などで、資格手当を付けている。また今年から、頑張っている職員は、ベースアップを行うようにした。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	今年は20代と60代の職員を採用し、年齢や性別の制限などは考えていない。今後も年齢や性別の制限などなく、個人個人を尊重し、能力に応じた仕事ができるように配慮している。	採用は資格の有無は問わず、働きながら資格取得を奨励している。職員はケアマネや介護福祉士に挑戦中で意欲的である。年齢や介護スキル等に合わせてシフトを組む工夫や、有給休暇も希望に添う配慮で、働きやすい職場づくりがある。職員配置の兼ね合いで、一般の研修に参加できないのが現状である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会などに参加をしてもらっている。また、学習してきたことはミーティングなどで話し合う機会を作っていけるよう努力している。	今年度はまだ開催されていないため、参加出来ない。	行政主催など研修会の機会は多いため通年の参加をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会、広域連合などの研修会に参加している。また、今後も参加を予定している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H20年7月に発足した、福智町グループホーム協議会に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の希望があった場合は、体験入居を勧め、本人と面談の機会を多く持つようにし、本人を理解する努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の希望があった場合は、家族の求めていることを理解するために、話し合いを多く持つように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた上で、本人にとって、自宅や他のサービスが必要な場合は、そちらを勧めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者とコミュニケーションをとりながら、家事や会話を通じて一緒に学ぶ機会を作り、支えあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時、利用者さんの状況を話す機会を多く持ち、本人を支えていく関係を築いていけるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の意向をよく聞き、昔行っていた馴染みの店や病院など、希望に沿って連れて行っている。	入居前から通っていた美容院へ、今でも通えるように送迎の支援をしたり、外出傾向のある入居者に、車で自宅まで出かけるなど行っている。地元からの入居者が多く、地域住民が訪ねてくることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、トラブルを起こす事もあるが、その都度、職員が上手にフォローしている。また、利用者から話をよく聞き、大きな問題にならないように気を付けている。食堂に集まり、学習療法やぬり絵、手工芸など皆で集まれる時間を作るようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事には、参加の呼び掛けを行っている。また、家族から相談事がある時は、出来る限り協力するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向を把握し、可能な限り本人本位のサービスに努めている。	センター方式シートを参考にアセスメントを行うとともに、日々の関わりの中で、行動や表情から思いの把握に努めている。小学校の児童との交流で涙を流す入居者の姿から、子どもを見ると嬉しく心が和む豊かな感情を職員は見出している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族、管理者、看護師を含め、これまでの暮らし方を聞き取り、入所後の生活に反映させている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの情報シートなど作成し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直しの時に、担当者会議の開催を行い、本人を含め話し合いの場を作っている。家族の参加は出来なかったが、家族と話し合う時間を作るよう努力した。	家族の意見を伺いながら、3ヶ月ごとに計画の見直しているが、入居者の表情からホームの生活が理解できると話す家族が多い。洗濯物を入居者毎に分けたり、畳む等の過程に、入居者の力量に応じた支援が実践されている。	実践しているケア内容を短期目標に設定することで、より具体的なモニタリングをお願いします。また、介護保険給付更新時の担当者会議は、家族に参加を促してサービス成果や情報を共有する好機なので、活用を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護記録に日々の様子や気付きを記入し、スタッフで共有している。また、その記録を参考に、介護計画の見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特徴を生かし、家族や利用者の希望に沿えるように、通院介助、外出など柔軟な支援が行えるよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流などを積極的に行っている。老人会主催の敬老会にも参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望は大切にし、安心して医療が受けられるように支援している。	母体病院以外でも、職員が個別に対応し受診支援している。受診後の報告も家族に電話で行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者さんの変化や気付いたことを、訪問看護師に報告、相談し指示を仰いでいる。また、訪問看護師は必要に応じて、主治医に連絡を取り、指示を仰いでいる。緊急時でもすぐに対応してもらえるよう体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合、本人が安心して入院治療が受けられるように、医師・看護師などと情報交換に努めている。また、退院後のホームでの受け入れも、訪問看護師を含め全員で話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族と話し合いの場を持っている。必要な場合は、かかりつけ医と話し合いを行い、スタッフ全員で方針を共有している。	入居時に看取りの希望があれば、看取りに関する契約を別途、結ぶことを説明しているが、現在、契約された入居者はいない。看取りの経験はないが訪問看護ステーションと連携して、変化に応じた体制づくりに努めている。母体病院の協力もあり、先日急逝された入居者には迅速な対応がなされている。	重度化や終末期に対する方針を職員が共有できる研修を開催し、看取りに対する不安や負担感の軽減を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ビデオやマニュアルを作成し、何時でも見れるようにしている。学習会の参加は出来なかったが、訪問看護師による勉強会(緊急時の救急処置など)を行った。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、ホーム内での避難訓練は年2回(春・秋)行っている。災害時用のリュックサックも準備して備え付けている。	消防署の協力のもとで1回、自主的に1回、避難訓練を重ねている。過去に落雷を受けた経験があり、復旧までの不便さを痛感している。今後は緊急連絡網の活用や備蓄の見直し、救急蘇生法やAEDの研修に取り組む予定である。	小学校よりもホームが高台にあるため、小学校のAEDの学習会の参加などで、相互の助け合いを提案されてはいいがでしょうか。また、母体医療機関でのAED研修参加も期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような言動は、慎むようにしている。また、言葉かけや対応が好ましくない場合は、職員同士で注意を行っている。	職員は人前では、あからさまな介護や誘導をせず、さりげない声掛けや対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、入居者が自分の思いを話しやすい環境を作っている。また、本人から意見や思いを尋ねるようにしている。重度の認知症の方には、表情を観察したり、短い言葉で分かりやすい話し方に気を配り、本人の思いをくみ取るよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、その人の暮らしに合わせて、出来るだけ希望に沿える支援を心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、本人の個性を大切にし、さりげなくアドバイスや相談に乗っている。散髪は、ほとんどの方が訪問美容室に行っているが、希望される方は行きつけの美容室に連れて行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、出来る方が少なくなっている。本人の能力に応じて、下膳のみ一緒にやっている。	管理栄養士作成した献立で、業者から食材を購入している。近隣からとれたての野菜が届けられた時は、メニューに取り入れて楽しんでいる。後片付けや茶碗洗いに力量を発揮している入居者もある。あちらこちらに外食に出かけて、その折はいつも以上の食欲に驚かされる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせ、必要な栄養・水分は取れるようにしている。食欲の低下している入居者に対しては、好みの食事、希望する時間、回数を増やすなどの対応を取っている。夜食にパンなどを提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの声掛けを行っている。自分で出来ない入居者は介助を行い、口腔内の清潔には気を付けている。また、必要に応じて歯科受診も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターン、習慣をキャッチし、見逃さず気持ちよく排泄できるよう支援している。常にトイレでの排泄を心がけている。紙パンツから布パンツへ変更できるよう支援している。	入居者ひとり一人の排泄リズムやサインを把握し、トイレでの排泄を支援している。備品倉庫におむつのストックが少なく、排泄の自立には、職員一丸となって取り組んでいる姿勢が伺える。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の管理、食べ物、運動などに気を付け予防に努めている。必要に応じて、ヨーグルト等を提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望する時間に気持ちよくゆったりと入浴できるように、必要に応じて介助を行っている。入居者が入浴を望まない時は、無理強いはいないようにしている。	各ユニットごとに週3回入浴を支援している。2つの湯船を本人の身体状況にあわせて使用し、介護者も本人が同性介護を希望すれば柔軟に対応している。入浴拒否の方には、時間を置いて声掛けしたり、介護者を変えて対応できている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のために、嗜好品の提供や雰囲気作りに努めている。不眠を訴えてきた入居者に対しては、話を聞いたり、お茶を勧めたりして安眠できるように働きかけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細については、個人記録に綴じている説明書を参考にして理解、確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内のリハビリ体操、ぬり絵、書類の整理など個々に合わせて、張り合いや喜びのある生活ができるように支援している。週1回のパンの購入(訪問パン屋)も楽しみにしてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される入居者が減少しているため、花見や紅葉見学など、外出する機会を作るよう努力している。桜の木やプランターに花を植えたり、畑の作物を収穫したり、みんなで庭に出て楽しめるよう工夫している。	散歩に好んで行く入居者が少なくなり、近くの物産館や隣町の道の駅、直方いこいの森等に出かけ、買い物や外食を楽しんでいる。年間レクリエーション計画に基づいて、母体病院の車を利用して、花見や紅葉見物、ドライブを楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な入居者は、自己管理してもらっている。週1回のパン購入時(訪問パン屋)には、お金を使えるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望があればいつでも使用できるようにしている。また、携帯電話を所持されている入居者もいる。手紙を出される方には、宛名書きの代行も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、日頃から常に清潔に配慮している。季節の花を飾るなどして、季節感を感じさせるよう工夫している。	玄関は広くゆったりとしたスロープが設置され、雨が降っても車から濡れずに出入りできる。玄関脇には桜の木が植樹され、玄関脇のベンチで毎年のお花見がホーム内でできるようになった。廊下には七夕飾りや入居者の塗り絵等が掲示されており、長い廊下を利用して、自主的に歩行訓練する入居者もいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファ、テレビを設置し、利用者が集まりやすいように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、馴染みのある布団やダンスなどを設置し、本人が安心して過ごせるように工夫している。	居室の窓からは、広々とした田園風景が広がり、自宅から持ち込まれたテレビや家具を置き、家族の写真や金婚式を迎えた写真、花などを飾って、落ち着いて過ごせるように設えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居間などに目印を付け、本人に分かるように工夫している。		